平成14年度４月～６月の行事案内

展覧会

★テーマ展示Ⅰ『変わりゆく景観－古絵図』

会期　４月13日（土）～５月26日（日）

城絵図・藩領図・村絵図・地籍図など当館が所蔵する古絵図を展示し、開発の歴史の中で失われていった地域の景観や昔の人々の暮らしぶりを振り返ります。

主な展示品

正保城絵図「豊後府内城之図」（模写）／日根野時代府内藩領図／杵築府内間山水図／大分郡原村絵図 他

★テーマ展示Ⅱ『源氏物語絵の魅力』

会期　６月１日（土）～７月21日（日）

当館が所蔵する23面の源氏物語図や大友義統が書いたとされる源氏物語を題材とした手鑑（てかがみ）を展示し、「光源氏」や王朝貴族が繰り広げた恋物語を紹介します。

主な展示品

源氏物語図／十二月言葉手鑑

御城下絵図

源氏物語図　巻５「若紫」

体験学習・映写会

★親子歴史体験講座

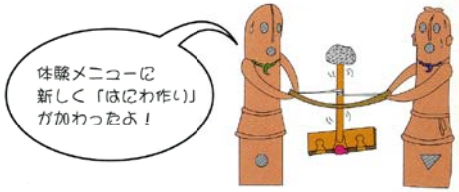
毎月の第４土曜日（５月は第１土曜日）に午前の部（10時）と午後の部（14時）の２回開催。活動時間は約２時間程度

- ４月27日（土）
  第１回　粘土はにわ作り（材料費１個210円）
- ５月４日（土）
  第２回　カラー勾玉作り（材料費１個200円）
- ６月22日（土）
  第３回　火起こし体験（無料）

※電話での事前申し込みが必要です。１回約50名

★映像でつづる歴史への旅（無料）

- ４月28日（日）－絵図に偲ぶ江戸のくらし
  浮世絵にみる町人のくらし
- ５月26日（日）－日本列島と朝鮮半島
  壁画よみがえる
- ６月23日（日）－国宝源氏物語絵巻



●編集後記

今年度もいろいろな行事がめじろ押しの内、あっという間に終わってしまいました。開館以来の考古の常設展示替えでは、最後まで頭を悩まされましたが無事に終り、ほっと一息といったところです。今回は古墳・古代のコーナーをリニューアルしましたが、2002年度は弥生時代のコーナーを予定しています。市内にはあちこちに、昔の人たちの生活の跡（遺跡）があり、各所で遺跡の発掘調査が行なわれています。資料館ではこうした調査成果を多くの市民の方々に還元し、わかりやすく紹介していければと思っています。県都大分市の歴史や文化をもう一度見つめ直してみませんか。

（T.N）

資料館ニュース　No.58
発行　2002.３.31
大分市歴史資料館
大分市大字国分960番地の１
〒870-0864 ☎(097)549－0880

大分市
歴史資料館ニュース
OITA CITY HISTORICAL MUSEUM NEWS

豊後国分寺梵鐘復元模型（縮尺1/4）

58
2002.３.31

表紙紹介

豊後国分寺の梵鐘復元

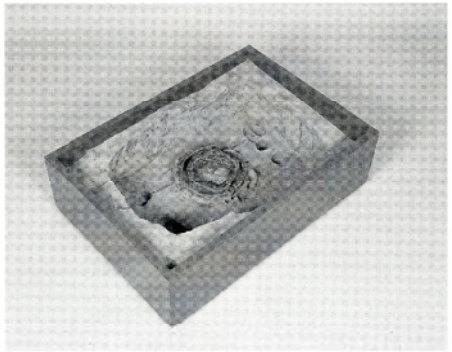
資料館では今年度、第一展示室の古墳時代・古代のコーナーの常設展示替えを行いリニューアルしました。その中で、1998年の7月に国指定史跡「豊後国分寺跡」の史跡地内で発見された、平安時代（9世紀初め）の梵鐘鋳造遺構の模型と、それから復元された梵鐘の模型を新しく展示しました。

梵鐘鋳造遺構は、時を知らせるための釣り鐘を造った跡で、この時期では全国の国分寺の中でも初めての発見になります。通常、梵鐘の鋳造には金属を溶かす「溶解炉」と呼ばれるものと、溶かした金属を鋳型に流し込む「鋳造坑」の2つの施設があります。発見されたのは、「鋳造坑」で、その中央部分には出来上がった梵鐘を取り出すための「搬出坑」が確認できました。搬出坑は梵鐘を取り上げた後に、後片付けのゴミ穴として利用されており、鋳型や溶解炉、銅滓（銅のカス）、銅製の帯金具などが中に棄てられていました。

鋳造坑は長さ3.0m、幅2.0mを測り、深さは現状で70cmありました。本来は梵鐘の大きさと同じくらいの深さがあったと考えられます。内部には、鋳型を設置するなどの作業をしたと考えられる硬くなった部分や粘土によるハリ床面、鋳型の固定施設である掛木の跡や、鋳型をのせたジョウなどが確認できます。内型の内側からは焼けた土が観察でき、内型の成形・焼成が鋳型坑内で行われていたことがわかります。こうした制作工程なども復元ができるほど、遺構の残存状態はよいものでした。

また、棄てられた多数の鋳型片から実際に造られた豊後国分寺の梵鐘が復元できました。出土した鋳型には、竜頭や乳、撞座などの部分は見られませんでしたが、その他の主要な部分は出土しており、中でも駒の爪部分については目を見張るものがありました。梵鐘の大きさは、同時期に製作された現存する三河国分寺鐘を参考にし、駒の爪部分の直径との比率から、高さ約159cm、直径約97cmに復元。模型は実物の1/4の縮尺で製作し、撞座部分については、同時期の豊後国分寺軒丸瓦をモチーフにしています。

時を知らせるために造られた梵鐘、復元されたその梵鐘の前で目を閉じると、今から1200年前に鳴り響いていた鐘の音が聞こえてくるようです。



梵鐘鋳造遺構模型（縮尺1/4）

梵鐘鋳造の様子

テーマ展示Ⅳ

中根家伝来の品々－江戸時代の家老の暮らし

会期　2月9日(土)～3月31日(日)

中根家は、江戸時代に徳川家康の四天王の一人に数えられた本多忠勝家に代々家老として仕えました。同家には、その歴史を物語る古文書や絵図、武具や調度品など多くの資料が今日まで大切に守り伝えられています。伝来する品々の中には、本多家や徳川家にまつわる資料など、日本の歴史を理解する上で大変興味深い内容のものも見受けられます。本テーマ展示では、こうした貴重な資料の一部を公開するとともに、同家の歴史とその江戸時代の暮らしを紹介しました。

以下、本展示の内容について簡単に紹介しましょう。

中根家の歴史　中根家は、同家の系譜等によれば、伊勢平氏平正盛の子忠正を祖とし、保元の乱（1156年）で忠正が上皇方に与し敗れた後、その子孫が三河国碧海郡中根村に移り住み、その土地の名である中根の姓を名乗ったとあります。その後、同国額田郡箱柳（現在の岡崎市箱柳町）に居を移し、戦国時代に今川氏や織田氏に仕え、やがて家康の代になって徳川氏に従ったと記されています。家康は、元亀3年（1572）三方原の戦で戦死した中根正秋の後継として、当時正秋の兄中根忠貞の養子となっていた織田信秀の十男信照（この頃、政信と名乗る）を迎えさせました。これが本多平八郎忠勝に仕えた中根氏の初代忠実であると書かれています。忠実は、天正18年（1590）本多忠勝が上総大多喜を領した時に、彼の嫡男忠政（本多家2代）の後見役として本多家に付けられ、以後、同家は本多家の老職として重きをなし、幕末に至るまで代々の藩主に仕えました。

中根家伝来の絵図と古文書　中根家4代忠真の書き記した正徳2年（1712）の文言によれば、本多政朝（本多家3代）が播州竜野藩主時代に城中に火災があって、中根家をはじめ重臣たちの家に伝わる記録が全て失われてしまい、そこで彼は古老や記憶する者に尋ね聞いて家の記録を作ったとあります。また、忠真はその生涯にわたって書籍や城絵図などの絵図類の書写・収集にも努めました。宝暦2年（1752）改めの「諸国絵図覚帳」によれば、彼が収集したとみられる絵図は約250点にものぼっています。忠真の意思は、その後も歴代の中根家当主によって受け継がれてゆき、収集と整理を重ねながら今日339点におよぶ貴重な古絵図が同家に残されるに至っています。古文書では、知行宛行状をはじめ、家系や藩政・財政に関するもの、また日誌など約400点の史料が伝えられています。特に中根家の絵図は、主家である本多家が11回も転封を繰り返したこともあり、内容も全国的に及び、その意味で大変注目されています。

中根家伝来の古道具　中根家には、絵図や古文書以外にも、同家の歴史を物語る古道具類が伝えられています。その中には、本多忠勝の妹で初代忠実の妻となった良見院が輿入れの際に持参したという漆椀や、彼女の所持品の一つとみられる「丸に立葵紋」（本多家の家紋）入りの羽子板、さらに本多家から下賜されたと考えられる丸に「本」の字をあしらった漆器や陶器などがあります。また、中根家の家紋「上羽蝶」を施した幟旗や具足、同じく同家の家紋とされた「抱茗荷」紋の入った青貝の重箱、歴代の中根家当主が使用した「花押型」（花押を印章化したもの）、さらには徳川家からの拝領品とみられる「三葉葵」紋入りの土師器皿などの珍しい品々も伝わっています。そのいずれもが中根家の歴史や格式を雄弁に物語っています。

中根家伝来の品々

本多忠勝書

本多平八郎忠勝の書と伝えられるもので、「政」の一字が記されている。武勇で聞こえた忠勝の別の一面が伺える内容である。

三葉葵紋入土師器皿

徳川家の家紋である三葉葵の紋が印刻された土師器皿。将軍家の儀式等に使用されたものとみられ、幕府からの拝領品と考えられる。

三州額田郡中山庄箱柳村中根肥後守居城跡図

中根家代々の居城とされた箱柳城跡を描いたもの。現在の岡崎市箱柳町にその遺跡が残る。中根肥後守は同家中興の祖とされる忠良なる人物で、徳川家康の祖父清康（1511～35）と同時代の武将。

中根忠容画像

8代中根忠容63歳の時の肖像画。文化11年（1814）に子孫に伝えるため描かれた。忠容は、本多家11代忠庸、12代忠典、13代忠顕の3代にわたって仕え、天明7年（1787）には忠典によって勝手方兼帯命ぜられ、財政再建を行っている。

「本」字文入り陶器

京焼（古清水）の向付と鉢。丸に「本」字の文が施されており、本多家からの拝領品とみられる。

丸に立葵紋入羽子板

宮中の様子を美しい色彩で描いた飾り羽子板で、一般に「内裏羽子板」といわれるもの。本品は、本多家の家紋である「丸に立葵」の紋が施されていることから、初代中根忠実に嫁した本多忠勝の妹「良見院」の関係品とみられる。

本多政長知行宛行状

寛文12年（1672）本多家5代政長が中根平右衛門（4代中根忠真）に2000石の知行を与えた内容のもの。

上羽蝶赤地白染貫幟旗

中根家伝来の幟旗で、全長約4mにも及ぶ。赤地に染めた絹布に同家の家紋である「上羽蝶」が白染抜であしらわれている。

肥前島原図（部分）

寛永14年(1637)12月から同15年2月の約3ヶ月にわたり、島原・天草地方の領民からなる約3万7千の一揆勢と幕府軍約12万の大軍が演じた原城の攻防戦を描いた絵図。原城の郭内部の様子や、攻める幕府軍の布陣、また情報収集用に設けられた井楼の位置などが克明にみてとれる。なお、本図は4代中根忠真が収集した絵図の一つで、彼は生前にこうした絵図を数多く残した。

長崎黒船入津備図

正保4年（1647）に通商の再開を求めて長崎に来航したポルトガル船2隻を幕府が拿捕した時の様子を描いた絵図。湾内を舟橋で封鎖し、諸大名が多くの兵員や船で警備するなど、当時の緊迫した状況がみてとれる。なお、本図も4代中根忠真の収集品の一つである。

紺糸威日の丸文柄具足

胴中央と佩立に日の丸(日輪)をあしらった具足。金箔を貼った兜の吹き返しと胴部には、中根家の家紋である「上羽蝶」があしらわれている。

『総合学習に活かそう！　歴史資料館』

「生きる力」をはぐくむ“総合的な学習の時間”が４月より全国の小・中学校で一斉にスタートします。地域の教材や学習環境の積極的な活用が求められている総合学習の課題作りに、身近な大分の歴史を調べ、昔の人たちの生活の知恵を体験することができる歴史資料館の見学と体験活動を活かしてみませんか。

イロイロできる歴史資料館の活用！

来館する学校やグループと事前に目的・時間・内容等の打ち合わせをすることで、限られた時間を有効に活用し、楽しく歴史が学べる活動内容を決めることができます。

調べてみよう！大分の歴史
調べる

展示資料見学	・大分の原始から近代までの歴史を時代ごとに学べます。
資料館の先生とＱ＆Ａ	・質問をFAXで送っておくと見学時の案内や資料で答えてくれます。
パソコン学習	・大分の歴史クイズ11の中からクイズに答えながら楽しく学べます。
ビデオを見る	・100本のビデオの中から大分の遺跡・人物・祭りなどが調べられます。
図書で調べる	・詳しく知りたい時は資料館の本の中から探して調べてみよう。

挑戦してみよう！
古代人の生活の知恵
体験する

火起こし体験	・縄文人の生活体験 弓づる式による火起こし体験
勾玉作り体験	・古代人のアクセサリー作りに挑戦（かっ石・粘土）を使っての勾玉作り
埴輪作り体験	・古墳を飾った埴輪作りに挑戦（円筒埴輪・踊る埴輪）から選べます。
明るさ体験	・火打石による発火体験や行灯（あんどん）などを使って昔の明るさを体験
農機具体験	・唐箕（とうみ）回し・籾（もみ）搗きなど農機具を使って今と昔の米作りを擬似体験
今と昔の道具クイズ	・今の生活道具と昔の道具をクイズ形式で探していく生活体験

歴史資料館活用実践例エトセトラ

13年度歴史資料館を訪れた多くの学校から感想や寄せ書きなどを贈っていただきました。その中で資料館見学や体験活動を活用した実践例をいくつか紹介します。資料館での活動と学校での活動を組み合わせるといろいろな学習活動に活用できそうです。

津留小の歴史新聞と荷揚町小短歌俳句集

□荷揚小６年・資料館見学感想短歌俳句集

（短歌）
・昔の火のスイッチ一つじゃ
つかないよ
十分かかって体力消耗
・火起こしは昔の人の
努力から
昔の苦から今の楽へ

（俳句）
・火起こしで
煙を吸って涙目だ
・明るさは
暗闇の中の宝物
・火起こしで
昔の人の苦労しり

□王子中２年
王子校区の文化財事前学習と見学の組み合わせ
⬇
班ごとの王子校区の文化財調査（校区内活動）
⬇
校区の文化財調査のまとめと発表（学校）

□荏隅小６年
古代を中心とした見学
土器作り ➡ 土器焼きに挑戦！（学校）

□賀来小３年
火起こし体験
かまどを使ってご飯炊き体験（学校）
昔の生活体験

□津留小６年
見学時の感想や気がついたことをまとめた児童の歴史新聞

□西の台小６年
古代を中心とした見学
土器の文様デザイン

□竹中小１～３年
資料館所蔵の竹中村絵図を見学
200年前の竹中へタイムスリップ！

□吉野小２年
事前質問に対してのＱ＆Ａ
地域の遺跡マップ紹介と見学の組み合わせ

□八幡小６年の調べ学習
資料館の見学内容と学校での班ごとの調べ学習のまとめ